

かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>

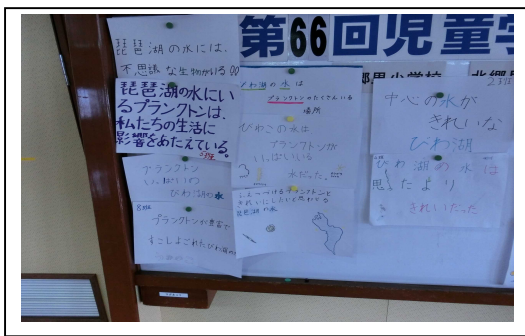


スイネックス学習

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」 「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する
け・・・継続する こ・・・行動する

「水質検査あれこれ」



【所長 新庄 正幸】

水の性質を調べる「ものさし」は、いろいろあります。例えば、水のpH簡易水質検査があります。酸性、中性、アルカリ性のどの性質なのかを調べる学習を取り入れられた航海がありました。乗船前に、学区の川の水のpHを調べたり、酸性の水（食酢を薄めたもの）アルカリ性の水（石けんを溶かし薄めたもの）について調べたりして、どのように色の変化が起こるかを調べました。pH7が中性で、

数値が小さいほど酸性が強く、大きいほどアルカリ性が強いことを示します。

身近な河川のpHを調べてからの乗船だったので、びわ湖の水の水質調べについてもどんどん自分たちで調べていきたいという子どもたちの欲求は高く、「びわ湖に流れ込む川の水のpHはアルカリ性の場合もあったのに、びわ湖の水は中性近くになる。これはなぜなのか。」という疑問を持つ子どももいました。

さらに、1泊2日の船内生活で発生する生活排水のpH簡易テストから、中性以外のものがあり、それが流れ込むことによって、水質が変化し、その環境に生きている生き物の生命に影響することを学びました。

また66回航海では、「スイネックス」というろ過キットを使って、ろ紙のよごれ具合を観察しました。1日目の大津タウンウォークラリー後に大津港付近の水を採水し、2日目のびわ湖環境学習で、注射筒とスイネックスを使ってろ過させました。長浜港付近の水や白石付近の水と比べながら、ろ紙に付いた汚れの原因は何だろうと問題意識を持ち、プランクトン検鏡や「湖の子」水調べをしました。

この学習は、班ごとに3つのびわ湖環境学習を終えた後、各班で話し合い、課題を決めてもう一度びわ湖環境学習に取り組みました。一度学習した場所に再び戻ることも可能な「行きつ戻りつ」学習です。最初の調べ学習で時間が足りなかった場合は、もう一度じっくり観察することができます。子どもたちは、「もっと正確に調べたい。」「もう一度よく見て、画用紙にまとめたいからスイネックスをしたい。」という目的を明確にした「行きつ戻りつ」学習のよさが表れていました。

一つの学習課題についての気づきや分かったことから、例えば、「どうやらプランクトンと人のくらしにも関係がありそうだ。」という下船後の新たな学習課題を見つけることもできた航海でした。

かきくけコーナー

49回航海のことです。「湖の子」掃除が終わり全員学習室に集まり、もう閉校式が始まろうとする5分前に、学習のまとめが始まりました。2日間で学んだことや発見したことの発表会を受けて、班長である所員は、「素晴らしいびわ湖の景色を見ての気づき」「一滴にたくさんの命があることの気づき」等、素晴らしい気づきを学校での学習につなげるよう促し、下船しました。